

第拾三号 八月五日認む (長閑注記)

第拾五号拝見仕候上等入費とハ即給貸生同前百二十円授業料に除キ

御座候名実齟齬致候所ハ第拾(抹消)号を以テ申上候通不得止之

事情有之願候暇無之且県庁にてハ今迄も上等費用と存居可申候

左て教授料ハ今以テ不納ニ居候故ハ前便再三申上候通費用上等

とも下等とも表向不極なれハ也此度若御同意にて上等費用相納

候節ハ受業料相当五円五十銭可納なれ共給貸生ニ働へ二円宛納

候ハ、不少不多にて宜かるべくと存候就てハ御願書一通御認め

被下戸長にて「右之通相違無之候也」と奥書致具候得ハ其にて

宜県庁ニハ一向管係無之候(抹消)「間」尤文面ハ尋常上ニ載スル如

ニ候得共私ハ他人とハ違候故毎月五円五十銭にてハ余り金高相

嵩候ニ付云々之趣を以テ願候ハ、可然と存居候併文面ハ何と書

候ても不差支何れ上納致兼候趣意されハ宜候間御賢慮も有之候

ハ、無御遠慮御認被下度候宮部ハ書状慥ニ相達候私ハ差出候

十号ハ九号之誤ニ可有之や何れ嶋田ニ頼候てハ此度にて四度差

上候と覚居候嶋田ハ一通慥奉請取候宜く御返答奉願上候此方

ハも御尊前へと同封にて出候也一通差出候筈達候や若前願書之

内不都合之廉有之時之用意ニ戸長之印書前ニ一枚御遣被下度但

し十二九分ハ何ニても差支可無と存候間若戸長(抹消)「之人」偏屈ニ

て輒印を不押様ノ人ニ候ハ、強而用候無之存候右首報まで早々
頓首

御尊父様 武夫拝

足下 当十六日ニハ学校ニ帰候間学校

宛にて尊簡御送被下度以上

(注記1)

「旧舎ニハ下等私費生差置候云々と書し候書翰何れ同号之書簡ニ

度差出候所疑居候」

(注記2)

「私儀従来困窮にて受業料相当之高五円五十銭上納仕義候間一ヶ月式

円宛上納仕度何卒右高にて御聞濟奉願候也

菊池武夫

開成学校

御中

右之通

用紙美濃紙

戸長印

(長閑注記)

「八月十三日達同日此方第十六号ヲ以返事郵便へ出し」

(朱書)